

## 第5章「社会活動の実践」型の評価分析

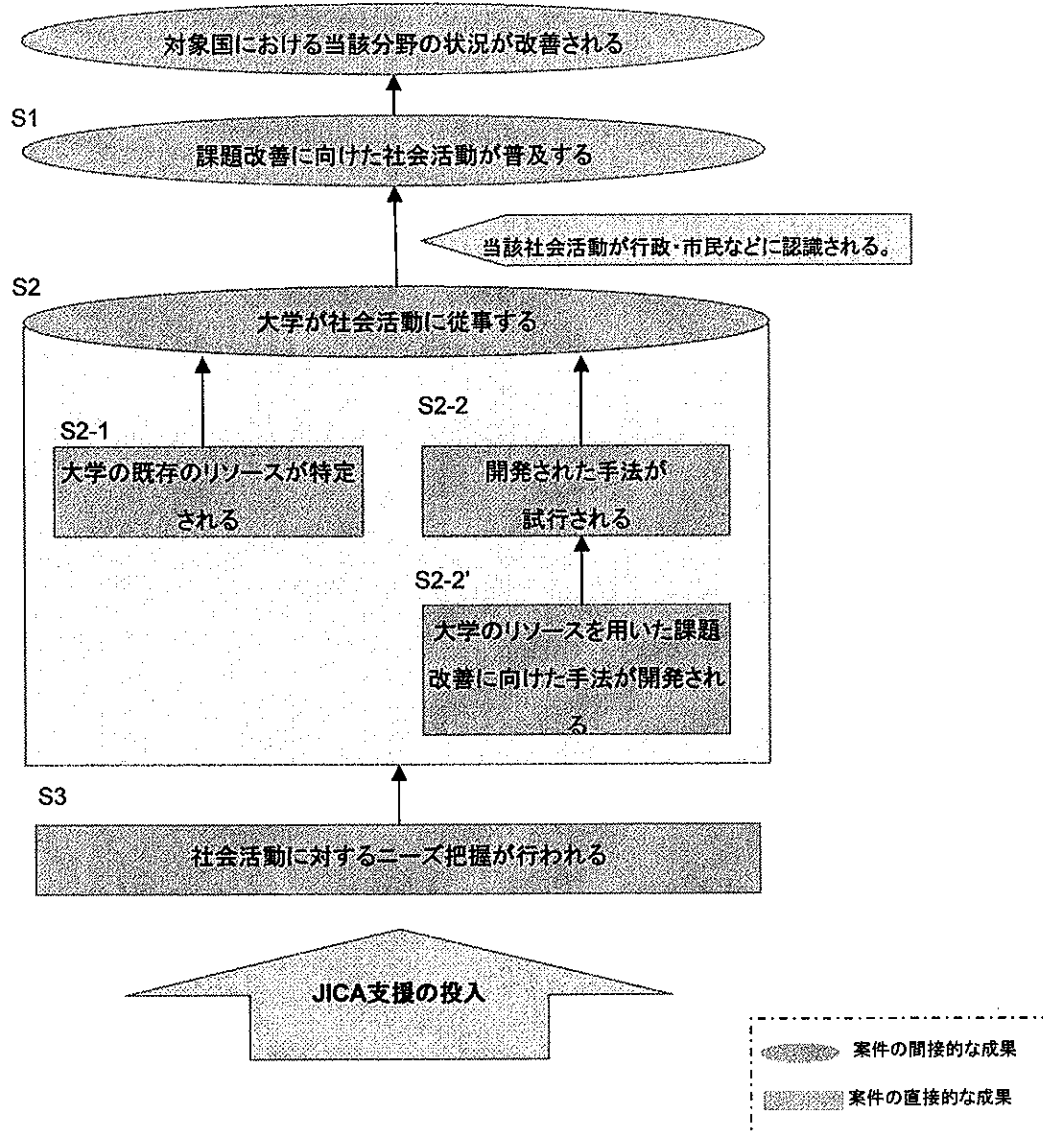
本章では、高等教育案件の3類型のうち、「社会活動の実践」型に該当する評価対象案件について評価分析を行う。

まず、5.1では該当する対象案件の概要を説明する。続く5.2では、各案件が当該国の社会のニーズに対してどのような目標を設定し、如何なる手法で問題に対処しようとしたかという案件のアプローチについて、次頁の「社会活動の実践」型ロジックモデルを用いて考察する。「社会活動の実践」型のロジックモデルは、大学が社会の課題に直接対応し、大学が社会活動に従事することで、より短期的に上位の目標に到達することを目指すものである。そのアプローチは、「教育活動の改善」または「研究機能の強化」等、他の類型と併せて形成されることも多く、案件によって多様なアプローチになっている（詳細は第2章P15 図2-3 参照）。

そして5.3では、今回の現地調査、アンケート調査による評価結果から、各案件のインパクトと自立発展性を整理し、案件のアプローチとの関係を考察する。

最後に5.4では、5.3までの考察を総括し、「社会活動の実践」型案件の教訓を抽出することとする。

### ③社会活動の実践



<再掲： 図 2-6. 「社会活動の実践」型のロジックモデル>

## 5.1 「社会活動の実践」型の対象案件概要

はじめに、評価対象となる案件の概要を示す。

### 5.1.1 対象案件一覧

今回の評価対象案件のうち、「社会活動の実践」型に該当する案件は以下の通りである。

表 5-1. 「社会活動の実践」型対象案件一覧

国名	案件名	主要目的		
		教育活動の改善	研究機能の強化	社会活動の実践
ケニア、タンザニア、ウガンダ	アフリカ人づくり拠点構想 (AICAD)	○	○	○
スリランカ	ペラデニア大学歯学教育	○	△	○
タンザニア	ソコイネ農業大学 (SUA) 地域開発センター (SCSRD)		○	○
タイ	未利用農林植物研究計画		○	○

注：○印は該当案件の主要な目的、△印は該当案件の副次的な目的<sup>15</sup>

案件の主目的を「社会活動の実践」にしている案件は、4件ある。このうち3件までが同時に「研究機能の強化」を主目的としている。また、残りの1件は「教育活動の改善」が主目的、「研究機能の強化」が副次的な目的として設定されている。社会活動に役立てることを目的に、研究を行う取り組む案件が多い傾向にあるため、大学による社会活動は、「研究機能の強化」機能との関係が強く、アプローチとして同時に採用されるケースが多い（第4章 P65 参照）。

### 5.1.2 対象案件の特徴

「社会活動の実践」型の4案件の支援対象レベルと分野は、以下のようにになっている。

表 5-2. 「社会活動の実践」型対象案件の支援レベル・分野

国名	案件名	対象レベル	分野
ケニア、タンザニア、ウガンダ	アフリカ人づくり拠点構想 (AICAD)	ネットワーク	農業
スリランカ	ペラデニア大学歯学教育	学部	医療
タンザニア	ソコイネ農業大学 (SUA) 地域開発センター (SCSRD)	学内センター	地域研究
タイ	未利用農林植物研究計画	研究所	環境

<sup>15</sup> 主要な目的と副次的な目的については、該当案件の評価報告書等関連資料を基に判断した。

「社会活動の実践」型の支援対象は、いずれも大学内の特定のセンター、研究所、組織となっている（「スリランカ・ペラデニア歯学部」のケースでも、案件の支援対象は歯学部であるが、社会活動の側面は歯学部の付属病院で実施された）。これらの対象機関は、一般的な教育・研究活動だけでなく、社会に直接的に関与する活動を遂行する役割を担っている。また、医学・歯学部の案件においては、組織ミッションの中に医療サービスの提供を含んでいるため、他の学部よりも社会活動に従事しやすい特徴があるが、本章では他学部と同等に調査対象とする。

## 5.2 社会的ニーズと各対象案件のアプローチ

本節では、対象案件が社会的ニーズに対してどのような目標を設定し、いかなる手法で問題に対処しようとしたのかという各案件のアプローチを整理する。

### 5.2.1 対象案件形成時の社会的ニーズ

最初に、各対象案件の形成時にどのような社会的ニーズが認識されていたか、いいかえれば各案件の問題意識について整理する。下表は、対象 4 案件の形成時に捉えられていた社会的ニーズについて要約したものである。

表 5-3. 「社会活動の実践」型対象案件に対する社会的ニーズ

アフリカ・AICAD	アフリカ地域の貧困削減。大学が地域固有の知識、在来技術を活かして問題の解決に取り組む必要性。
スリランカ・ペラデニア歯学部	スリランカ国民の歯科口腔疾患の深刻化に伴う歯科口腔保健（治療・予防・早期発見）の向上に対するニーズへの対応。
タイ・未利用農林植物	タイの木材需要の増大、森林の耕作化、焼畑などによる森林面積の激減に対処するための森林保全技術の必要性。
タンザニア・ソコイネ	タンザニアの貧困削減。タンザニアの研究者が主体的に国内の地域開発に携わる必要性。

「社会活動の実践」型では、全て「地域内または国内における社会問題の解決への必要性」（第 4 章参照）への認識が案件形成の出発点となっている。保健、環境、貧困など、いずれの社会問題も全世界的な課題でありながら、その解決は地域独自の社会・自然環境と密接な関係を持っており、地域に根ざしたアプローチや知識を必要としている。そのため、該当地域の高度な知見を有する大学の関与が求められているのである。

### 5.2.2 対象案件の目標設定

前節で見た社会的ニーズに対し、各対象案件がどのような目標を設定したかを整理・分析する。表 5-4 は、対象案件の PDM に示された上位目標、プロジェクト目標と外部条件で、図 5-1 と図 5-2 は上位目標、プロジェクト目標をそれぞれ「社会活動の実践」型のロジック

モデルに位置づけたものである。

表 5-4. 「社会活動の実践」型対象案件の上位目標・プロジェクト目標

	上位目標／プロジェクト目標	外部条件
アフリカ・AICAD	【スーパーゴール】 アフリカの貧困が解消され、経済・社会開発が進展する。	対象3カ国の貧困削減政策が変わらない。
	【上位目標】 育成された人材により、貧困削減への取り組みが進展する。	対象3カ国の政情・治安が安定している。
	【プロジェクト目標】 東アフリカ3国の共同プロジェクトとしてのAICADの組織・事業が確立し、貧困削減に資するアフリカの人材育成が図られる。	対象3カ国の政情・治安が安定している。
スリランカ・ペラデニア歯学部	【上位目標】 スリランカ国民の口腔保健状況の向上を目指し、ペラデニア大学歯学部と教育病院における歯学教育、サービス、研究活動の継続的な発展を推進する。	スリランカの人々が、新設の歯学部・教育病院を最良の訓練・治療施設として認識する。
	【プロジェクト目標】 歯学部と教育病院が限られた条件下で最高水準の機能を達成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・政府が歯科教育の重要性を認識している。</li> <li>・適切な患者費用負担スキームが構築され適用される。</li> <li>・高等教育省が適切な資金を配分し続ける。</li> </ul>
タイ・未利用農林植物	【上位目標】 開発されたアグロフォレストリーシステムの新モデルの有効性が実証され、タイ農村部で導入されるようになる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイの植林奨励策が変化しない。</li> <li>・パルプ／紙市場に大きな変化が起こらない。</li> <li>・タイの経済がさらに大幅に悪化しない。</li> <li>・農林業及びパルプ化技術に対する普及体制に変化が起こらない。</li> </ul>
	【プロジェクト目標】 農林植物材料の高度利用により農村が持続的に発展するためのアグロフォレストリーシステムの新モデルが開発される。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実証実験の実施体制に変化が起こらない。</li> <li>・農林業及びパルプ化技術に対する普及体制に変化が起こらない。</li> </ul>
タンザニア・ソコイネ	【スーパーゴール】 タンザニアにおいて、農民の生活水準が向上する。	—
	【上位目標】 1) 持続可能な地域開発手法(SUAメソッド)がセンターや他組織により他地域にも適応される。 2) モデル地域の生活水準が向上する。	—
	【プロジェクト目標】 持続可能な農村開発手法(SUAメソッド)がSCSRDのキャパシティビルディングを通じて2つのモデル地域(マ	—

テンゴ山地およびウルグル山地域)において開発される。

上位目標設定

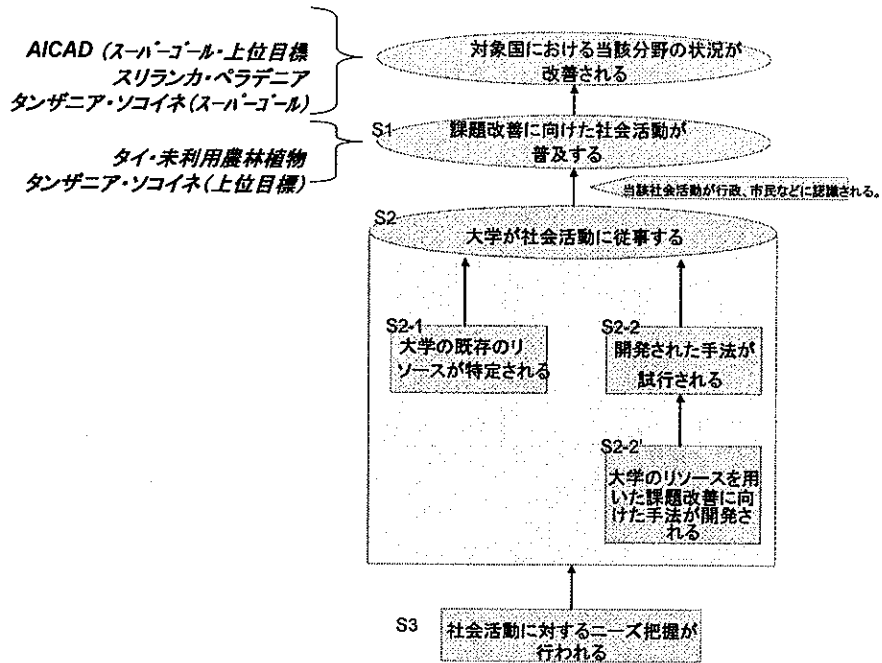


図 5-1. 「社会活動の実践」型対象案件の上位目標：ロジックモデル上の位置づけ

## プロジェクト目標設定

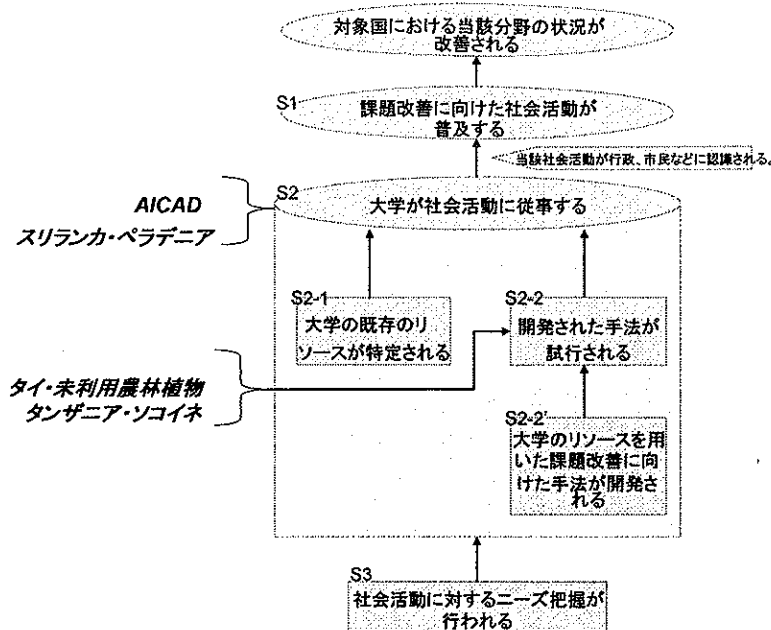


図 5-2. 「社会活動の実践」型対象案件のプロジェクト目標：ロジックモデル上の位置づけ

「社会活動の実践」型の対象案件の上位目標には、「当該分野の状況の改善」が据えられていることが多いが、「タイ・未利用農林植物」と「タンザニア・ソコイネ」の上位目標では、大学のリソースを用いて開発した手法の普及に焦点が充てられており、これはロジックモデル上は「課題改善に向けた社会活動の普及（S1）」に相当する。一方、両案件のプロジェクト目標としては、共に「開発された手法の試行（S2-2）」が掲げられている。両案件は、支援対象の研究機関の基本的な能力の高さを前提として形成されているため、目標設定が他の「研究機能の強化」型案件よりも高くなっている（第4章参照）。

社会活動で求められている専門性やノウハウが、大学の研究者の保有するものと比較的合致するような場合は、まず、大学の既存のリソースが特定される（S2-1）。この場合、医療分野に代表されるように、大学自身のミッションに案件のプロジェクト目標が近い場合が多く、案件終了後も自己のリソースを適切に活用するか、これまでに確立した社会的評価を基に他のドナーから支援を受けやすいと想定され、自立発展性も高いことが期待できる。

また「スリランカ・ペラデニア歯学部」と「AICAD」では、いずれも対象機関の体制の確立と能力強化がプロジェクト目標となっており、これを「社会活動の実践」型のロジックモデルに位置づけると「大学の社会活動への従事（S2）」のレベルにあたる。

このように、「社会活動の実践」型の対象案件の目標設定は一見多様であるが、上記の表で上位目標やプロジェクト目標を並べてみると、いずれの案件でも地域固有の課題解決に

向けた目標設定がなされていることがわかり、この点は「社会活動の実践」型の特徴であると言えよう。

また、上位の目標到達に際する外部条件としては、主に当該分野の政府政策や政策環境に関する項目が設定されている。「社会活動の実践」型のロジックモデルで、「大学の直接的な社会活動への従事（S2）」と「課題改善に向けた社会活動の普及（S1）」との間に「当該社会活動が行政、市民などに認識される」という外部条件が想定されていたように、高等教育機関が取り組む社会活動は、それが政府や市民に取り入れられることでインパクトが一層拡大し、上位目標の達成へと繋がることが期待されていると考えられる。

### 5.2.3 対象案件の支援手法

次に、各対象案件がどのような支援手法を用いて上記の目標への到達を目指したのかについて整理する。まず、「社会活動の実践」型のロジックモデルに示された各々のアプローチと、それに対応して用いられている支援手法を案件毎に示したものが表 5-5 である。

表 5-5. ロジックモデルにおけるアプローチと対象案件の支援手法の関係

ロジックモデルのアプローチ		支援手法	案件の対応状況			
			① アフリカ・AIGAD	② スリランカ・ペラディニア歯学部	③ タイ・未利用農林植物	④ タンザニア・ソコイネ
社会活動に関するニーズ調査		社会調査の実施支援				△
既存のリソースの 特定 (S2-1)	社会ニーズに対応するサービスの 提供	サービスの提供支援		○		
	社会問題の所在と解決方法の周知	啓発活動・情報普及活動の実施支援		○		
課題改善に向けた 手法の開発 (S2-2)	社会ニーズに対応するサービスの 提供	サービスの提供支援				
		地域開発の振興支援				○
	社会問題の所在と解決方法の周知	啓発活動・情報普及活動の実施支援	○		○	△

注：「社会活動の実践」型案件で「マネジメントの改善」のアプローチも取られているが、これについては「教育活動の改善」型（第3章）、「研究機能の強化」型（第4章）で既に記載しているため割愛する。

「社会活動の実践」型では、前述のとおり全ての案件が他の 2 つ以上の類型に当てはま